

春の叙勲

虻川政義さんが受章 旭日双光章（地方自治功労）

9

期36年、町議会議員として平成11年から平成27年までの16年間、通算9期36年にわたって地方自治に携わってこられました。

この間、総務社会文教常任委員会委員長、総務福祉常任委員会委員長、和寒小学校改築調査特別委員会委員長等、多くの役職を歴任され、

虻川さんは、和寒高校卒業後の昭和30年から農業に従事され、昭和46年、35歳の時に議員初当選となりました。



旭日双光章を受章した虻川政義さん

以来、昭和62年までの16年間、平成3年から平成7年までの4年間、

平成11年から平成27年までの16年間、通算9期36年にわたって地方自治に携わってこられました。この間、総務社会文教常任委員会委員長、総務福祉常任委員会委員長、和寒小学校改築調査特別委員会委員長等、多くの役職を歴任され、芳生苑の増築や介護保険制度の充実化に奔走するなど、特に和寒町の福祉政策の発展に尽力されたほか、木質バイオマス関連施設の建設にも参画するなど、多方面にわたって町政の伸展に多大な貢献をされました。また、平成5年からは農業委員会委員となり、現在も委員として農地の高度利用や流動化、農業経営安定対策等に尽力されています。

「ミズナラの巨木を後世に伝えたい」 吉田昭八さんが将棋の駒を作成

巨

木の思い出を残しておきたいと、指導林家の吉田昭八さんから和寒町に、ミズナラの巨木を切り出して作った将棋の駒を寄贈していただきました。

東和の町有林内にあったミズナラの巨木は、樹高が約18m、幹の太さは約6mもありました。推定樹齢は約千年ともいわれており、昭和63年の環境庁による巨木調査では、ミズナラの木で全道2位、全国6位になり、平成11年、わっさむ1000年記念事業の年に町文化財に指定されました。

長年の風雪降雨の中生き抜いてきた老木も、枝枯れや幹の腐食が進み、今から5年前の平成24年8月、強風に耐えきれず、ついに力尽きて倒れてしまいました。何かに利用できないかと検討しましたが、「材」



10年前の巨木

になる部分が少なく、飾り駒としてやっと吉田さんが製作してくれたものです。

駒に刻んだ文字は、馬という漢字を左右反転させた「左馬（ひだりうま）」と呼ばれる縁起物で、逆になっていることから「まう」と読み、「舞う」を表すとも言われています。



高さ約30cm、重さ約3kgの駒